

第31回通常総会

2025年3月12日（水）

一般社団法人 言語処理学会

The Association for Natural Language Processing

第31回通常総会次第

日時 2025年3月12日(水) 12時10分～12時45分

会場 出島メッセ長崎 1F 会議室105(B会場サテライト)

総会次第

第1号報告 2024年度事業報告

第1号議案 2024年度決算報告

第2号報告 2024年度監査報告

第3号報告 2025年度事業計画

第4号報告 2025年度予算案

第5号報告 2025年度代議員構成

以上

2024 年度事業報告

1. 概要

言語処理学会の主要な活動として、論文誌「自然言語処理」の発行および年次大会の開催を計画通りに進めました。「自然言語処理」に関しては、第31巻の1号から4号を発行しました。第30回年次大会は、2024年3月11日(月)から15日(金)まで神戸国際会議場で開催しました。また、学会30周年の記念事業を実施しました。

2. 会員現況

正会員 1304 名 (+94) [うちシニア会員 17 名 (+0)]
学生会員 719 名 (+84)
賛助会員 37 組織 (+6), 59 口 (+27)
(2024 年 12 月 31 日現在, 増減は 2023 年 12 月 31 日との比較)

なお、定款第 11 条 1 項 2 号にもとづき、会費を 1 年以上滞納した会員 255 名(正会員 96 名(うちシニア会員 1 名), 学生会員 159 名)については、その会員資格を喪失したものと扱います。

3. 会誌の発行

第31巻第1号 (2024年3月15日発行, 通巻139号)
巻頭言, 一般論文9編, 学会記事5編, 編集後記, 会告
第31巻第2号 (2024年6月15日発行, 通巻140号)
巻頭言, 一般論文15編, 学会記事13編, 編集後記, 会告
第31巻第3号 (2024年9月15日発行, 通巻141号)
巻頭言, 一般論文15編, 応用システム論文2編, 学会記事7編, 編集後記, 会告
第31巻第4号 (2024年12月15日発行, 通巻142号)
巻頭言, 一般論文10編, 応用システム論文1編, 学会記事9編, 編集後記, 会告

4. 第 30 回年次大会の開催

◇開催内容

■会場と開催形式

- 現地会場を中心とするハイブリッド形式での開催
 - 会場: 神戸国際会議場
 - 現地ポスター発表を除く全ての大会プログラムにオンラインで参加が可能
 - Zoomによる参加者向けオンライン配信
 - 前川先生の特別招待講演を一般向けにYouTube Liveでリアルタイム配信
 - 第30回年次大会(NLP2024)は言語処理学会30周年を記念した大会として開催しました。節目の大会で、これまでの30年の蓄積を振り返り、これからの自然言語処理について議論できる場になったのではないかと考えています。
- 開催期間
 - 2024年3月11日(月)～15日(金)
 - 3月11日(月)13:00- チュートリアル, 本会議第1日, スポンサーイブニング

- 3月12日(火)09:30- 本会議第2日
- 3月13日(水)09:30- 本会議第3日, 懇親会
- 3月14日(木)09:30- 本会議第4日
- 3月15日(金) ワークショップ

■参加費用

NLP2023ではハイブリッド開催に伴う経費支出の増加のため, 参加費を値上げさせていただきましたが, NLP2024ではNLP2023と同じ金額といたしました。

	事前登録	直前登録	当日登録
一般会員	12,000 円 *1	18,000 円 *1	—
学生会員	3,500 円 *1	7,000 円 *1	—
非会員 (一般)	24,000 円 *2	30,000 円 *2	33,000 円 *2
非会員 (学生)	8,000 円 *2	12,000 円 *2	14,000 円 *2

*1 ... 不課税, *2 ... 税込

■参加登録数と発表件数

以下に2019年以降の発表件数・参加登録数の推移を示します。発表件数は前回大会から20件増加し599件となり, 過去最高となりました。また, 参加者数は前回大会から300名ほど増加し2,121名となり, こちらも過去最高となりました。

	開催年	開催地	発表件数			参加者数			
			Total	O	Th	P	M	Tu	W
第30回	2024	神戸国際会議場	599	224	78	297	2121	1491	1220
第29回	2023	沖縄コンベンションセンター	579	260	37	282	1828	1151	989
第28回	2022	アクトシティ浜松	386	221	33	132	1718*3	-	-
第27回	2021	北九州国際会議場	361	172	12	185	1508*3	-	-
第26回	2020	茨城大学	396	130	50	216	1052*2	-	-
第25回	2019	名古屋大学	398	132	56	210	1275	469	-

次に参加登録数の内訳を示します。括弧内はNLP2023の数値です。参加登録数のうち参加費の支払いを伴う登録数は, NLP2022は1,150人, NLP2023は1,602人でしたが, さらに増えNLP2024は1,870人となりました。増加要因はやはり大規模言語モデル・生成AIブームによる効果であると考えられます。また, 下記の多くの区分においてNLP2023よりも増加しています。

- 一般
 - 会員 事前: 525 (495) 直前: 74 (55)
 - 非会員 事前: 377 (267) 直前: 172 (119) 当日: 51 (40)
- 学生
 - 会員 事前: 457 (450) 直前: 33 (23)
 - 非会員 事前: 136 (122) 直前: 34 (20) 当日: 11 (11)
- 招待コード
 - 251 (257)

■スポンサー団体数

スポンサー申込数はNLP2023の80団体からNLP2024では89団体に増加し、過去最多となりました。スポンサー賞はNLP2023の9件からNLP2024では14件までに増加しました。

- ダイヤモンド 2・プラチナ 37・ゴールド 22・シルバー 28
- 展示ブース 通常:34・大型:5
- スポンサー賞 14

◇ 新規施策

初のハイブリッド開催であったNLP2023を踏襲することを原則としておりましたが、下記の新規施策を行いました。

- 大会委員会
 - アンチハラスメントポリシーの策定
 - 委員Slackワークスペースにおいて可能な限りpublicなチャンネルを利用することにより、委員会の透明化
 - スポンサーイブニングでのスライド投影
 - 参加証のサイズを大きくして見やすく(参加証郵送の際に生じたプライバシーの問題はNLP2025で改善します)
 - 5年ぶりの懇親会の実施
 - 実行正副委員長の2期制への移行
- プログラム委員会
 - CFPリリース手順の整理
 - プログラム編成において紙からオンラインツールに移行
 - 表彰内規の整理
- 実行委員会
 - 実行委員会業務の多くを業者に委託
 - ワークショップのオンライン配信をワークショップオーガナイザが行うのではなく業者に委託
 - オンラインポスターの改善
 - 懇親会で地元日本酒の提供

◇ プログラム

■ 本会議 (3月11日～14日)

一般セッション(口頭発表, ポスター), テーマセッション合わせて 599 件の投稿があり, 現地ポスターを除きオンラインで発表されました。発表数の内訳は次の通りです。

- 口頭発表(一般) 224 件
- 口頭発表(テーマセッション) 78 件
- ポスター発表 297 件

発表件数は過去最多の NLP2023 の 579 件を超えるものとなりました。また、テーマセッションは昨年の2倍近い78件の論文発表がありました。

■ テーマセッション(3月12日・13日・14日)

公募により設定された以下の 6 件のテーマセッションを開催しました。

- 人間と計算機のことばの評価
- 金融・経済ドメインのための言語処理
- 法ドメインにおける言語処理
- 言語とコミュニケーションの創発
- ことばと地理空間の情報処理
- 深層学習時代の言語学と自然言語処理

■特別招待講演(3月13日・14日)

言語処理学会30周年を記念し、通常の招待講演を特別招待講演とし、記念大会にふさわしい次の2名の先生をお招きしました。前川先生の特別招待講演はYouTube Liveによる一般配信も実施しました。

- ・Kevin Knight 先生(Threeven Labs)
30 Years of Perplexity
- ・前川 喜久雄 先生(国立国語研究所)
これからの日本語研究と国立国語研究所: E3P-Linguisticsをめざして

■招待論文講演(3月11日)

会誌「自然言語処理」に発表された論文の中から選出された以下の4件の論文についての発表が行われました。

- ・JGLUE: 日本語言語理解ベンチマーク
栗原 健太郎, 河原 大輔, 柴田 知秀
Vol.30, No.1, pp. 63-87
- ・定義文を用いた文埋め込み構成法
塚越 駿, 笹野 遼平, 武田 浩一
Vol.30, No.1, pp. 125-155
- ・人工言語による事前学習を用いた言語間転移可能な知識の分析
李 凌寒, 鶴岡 慶雅
Vol.30, No.2, pp. 664-688
- ・基本イベントに基づく常識推論データセットの構築と利用
大村 和正, 河原 大輔, 黒橋 禎夫
Vol.30, No.4, pp. 1206-1239

■チュートリアル(3月11日)

以下の4つのテーマについてチュートリアルを実施しました。

- ・自然言語処理の基礎
岡崎 直観 先生(東京工業大学)
- ・デジタル・ヒューマニティーズ入門
北本 朝展 先生(ROIS-DS人文学オープンデータ共同利用センター/国立情報学研究所)
- ・作って学ぶ日本語大規模言語モデル
松田 寛 先生(株式会社リクルート Megagon Labs)
- ・計算社会科学入門
吉田 光男 先生(筑波大学)

■スポンサーイブニング(3月11日)

スポンサーと参加者との交流を目的として、スポンサーイブニングとスポンサー交流会を開催しました。多くの方にご参加いただき、参加者とスポンサー間の交流で盛り上がりました。

■懇親会(3月13日)

新型コロナウイルスの影響のため、懇親会を開催することができていっていませんでしたが、本大会ではNLP2019以来、5年ぶりに現地(ANAクラウンプラザホテル神戸)で懇親会を開催することができました。600名もの参加者にご参加いただき、オフラインならではの交流をしていただけたのではないかと思います。

■ワークショップ(3月15日)

公募により採択された次の4件のワークショップが開催されました。いずれも多くの参加者が集

まり、濃密な議論が行われました。

- ・自治体における生成AI(ChatGPT)の利活用と問題点 (午前)
- ・生成AI時代の自然言語処理における産学官の役割と課題 (全日)
- ・日本語言語資源の構築と利用性の向上 (全日)
- ・大規模言語モデルの実世界応用 (午後)

◇各種表彰

年次大会優秀賞・若手奨励賞の選考にあたり、選考委員会を組織し、慎重な議論を重ねた上で選定を行いました。その結果、以下に示す最優秀賞1件、優秀賞12件、若手奨励賞18件の論文・著者を選定しました。大会賞の選考のための内規では、

優秀賞は全発表件数の約2%を目安とする

優秀賞の中で特に評価の高いものを0件から2件の範囲で最優秀賞とする

若手奨励賞は対象論文の4%程度を目安に選出する

となっています。最優秀賞、優秀賞、若手奨励賞ともに内規通りです。

優秀賞:対象論文は599件。2%程度は12件～14件

13位と14位に点数の開きが見られたため13位までを優秀賞とした。

13件の内、1位と2位の論文の点数の差に大きな開きが見られたため1件を最優秀賞とした。

若手奨励賞:対象論文は427件。4%程度は17件～19件。

19位と20位の間の差が僅少で、18位と19位の間には開きが見られたため、18位までを若手奨励賞とした。

その他、スポンサーが独自に賞を授与するスポンサー賞、ならびに、大会委員が選出する委員特別賞を表彰しました。

■最優秀賞(1件:発表番号順)

B8-6 逆学習による言語モデルの解析

磯沼大(エディンバラ大/東大), Ivan Titov(エディンバラ大)

■優秀賞(12件:発表番号順)

P1-20 単語ベクトルに基づく新たな meaning-frequency law の検証

永田亮(甲南大), 田中久美子(早大)

E2-1 テキスト生成による議論マイニング

川原田将之(NTTドコモ), 平尾努(NTT), 内田渉(NTTドコモ), 永田昌明(NTT)

D2-3 Autoformalization に向けた自然言語証明構造の形式化

服部清志, 松崎拓也, 藤原誠(東京理科大)

C3-2 長文生成の多面的評価:人手評価と自動評価の向上を目指して

鴨田豪(東北大), 浅井明里(ワシントン大), Ana Brassard(理研/東北大), 坂口慶祐(東北大/理研)

C3-4 InstructDoc: 自然言語指示に基づく視覚的文書理解

田中涼太 (NTT/東北大), 峯岐太一, 西田京介, 齋藤邦子 (NTT), 鈴木潤 (東北大)

P4-20 文法誤り訂正の包括的メタ評価: 既存自動評価の限界と大規模言語モデルの可能性
小林正宗 (都立大), 三田雅人 (サイバーエージェント), 小町守 (一橋大)

P5-24 地図を刺激に用いた位置情報参照表現の収集
大村舞, 川端良子 (国語研), 小西光 (Tecca合同会社), 浅原正幸 (国語研), 竹内誉羽 (HRI)

A6-1 Swallowコーパス: 日本語大規模ウェブコーパス
岡崎直観, 服部翔, 平井翔太 (東工大), 飯田大貴 (東工大/レトリバ), 大井聖也, 藤井一喜, 中村泰士, Mengsay Loem, 横田理央 (東工大), 水木栄 (東工大/ホットリンク)

E6-5 動詞派生前置詞の文法化の定量化
永田亮 (甲南大), 川崎義史 (東大), 大谷直輝 (東京外大), 高村大也 (産総研)

P6-25 自己認知は LM as KB の信頼性を高めるか
井之上直也 (JAIST/理研), 原口大地, 田中健史朗, 白井清昭, Natthawut Kertkeidkachorn (JAIST)

E7-1 どのような言語モデルが不可能な言語を学習してしまうのか? ---語順普遍を例に---
栗林樹生 (MBZUAI), 上田亮, 吉田遼, 大関洋平 (東大), Ted Briscoe (MBZUAI), Timothy Baldwin (MBZUAI/メルボルン大)

A8-5 継続事前学習による日本語に強い大規模言語モデルの構築
藤井一喜, 中村泰士, Mengsay Loem (東工大), 飯田大貴 (東工大/レトリバ), 大井聖也, 服部翔, 平井翔太 (東工大), 水木栄 (東工大/ホットリンク), 横田理央, 岡崎直観 (東工大)

■若手奨励賞 (18件: 発表番号順)

P1-21 日本語医療テキスト平易化の評価用データセットの構築
堀口航輝 (愛媛大)

C3-3 日本語Natural QuestionsとBoolQの構築
植松拓也 (早大)

C3-5 JDocQA: 図表を含む日本語文書質問応答データセットによる大規模言語モデルチューニング
大南英理 (NAIST)

P4-25 文法誤り訂正の自動評価のための原文・参照文・訂正文間のN-gram F-score
古山翔太 (東工大/産総研)

P6-14 対話モデルに対する敵対的プロンプトの効率的な最適化
矢野一樹 (東北大)

A7-6 AmbiNLG: 自然言語生成のための指示テキストの曖昧性解消
丹羽彩奈 (Megagon Labs)

D8-5 文法誤り訂正における参照なし評価尺度を用いた分析的評価法
五藤巧 (NAIST)

P8-13 翻訳文の部分構造を制約とした機械翻訳
帖佐克己 (NTT)

P9-21 算術推論問題における自己回帰型言語モデルの内部機序
工藤慧音 (東北大/理研)

P10-3 言語モデルからの知識削除: 頻出実体の知識は副作用が破滅的
高橋良允 (東北大)

B10-4 RealPersonaChat: 話者本人のペルソナと性格特性を含んだ雑談対話コーパス
山下紗苗 (名大)

B10-6 敵対的発言を取り入れた議論による言語モデルの学習強化と推論力の向上
Mengsay Loem (東工大)

P10-10 訓練可能なk近傍Retrieverで関係抽出事例を導入したニューラルプロンプティング
牧野晃平 (豊田工大)

A11-3 大規模言語モデルに対するサンプリングを活用したメンバーシップ推論攻撃
綿祐貴 (東工大)

A11-4 大規模言語モデルにおける評価バイアスの尤度に基づく緩和
大井聖也 (東工大)

A11-6 言語モデルの思考連鎖的推論における探索戦略の動的変化
青木洋一 (東北大/理研)

P11-7 kNN言語モデルは低頻度語の予測に役立つか？
西田悠人 (NAIST)

P11-11 テキスト生成モデルを利用したデータセット蒸留
前川在 (東工大)

■言語資源賞

言語資源賞のリニューアルのため、NLP2024での表彰はお休みし、NLP2025から再開します。

■スポンサー賞(14件:スポンサー賞申込順)

スポンサー14団体から独自の視点でそれぞれ1件の論文を選出していただきました。

* 日本電気賞

P5-6 質問応答モデルはどのショートカットを優先して学習するか？

篠田一聡 (東大/NII), 菅原朔 (NII), 相澤彰子 (東大/NII)

* SB Intuitions賞

P9-14 In-Context Learning においてLLMはフォーマットを学べるか

坂井吉弘, 趙羽風 (JAIST), 井之上直也 (JAIST/理研)

* LINEヤフー賞

A10-3 低頻度語彙埋め込みの縮約による事前学習済みモデルの圧縮
田村鴻希, 吉永直樹, 根石将人 (東大)

* サイバーエージェント賞

P2-9 テレビアニメ作品に関するSNS上の情報拡散傾向と感情の関係
石倉直樹, 土屋雅稔 (豊橋技科大), 吉田光男 (筑波大)

* 富士通賞

E10-4 小規模言語モデルによる統語パラメータの獲得
山田裕真, 染谷大河, 大関洋平 (東大)

* PKSHA Technology賞

C3-5 JDocQA: 図表を含む日本語文書質問応答データセットによる大規模言語モデルチューニング
大南英理 (NAIST), 栗田修平 (理研), 宮西大樹 (ATR), 渡辺太郎 (NAIST)

* リクルート賞

P6-21 大規模言語モデルにおける幻覚緩和のための単語確率の外挿
何昀臻, 高瀬侑亮, 石橋陽一 (京大), 下平英寿 (京大/理研)

* Kotoba Technologies, Inc.賞

B5-5 環境音に対する日本語自由記述文コーパスとベンチマーク分析
岡本悠希 (立命館大), 高道慎之介, 森松亜衣, 渡邊亜椰 (東大), 井本桂右 (同志社大), 山下洋一 (立命館大)

* 日立製作所賞

P6-15 日本語TruthfulQAの構築
中村友亮, 河原大輔 (早大)

* Money Forward賞

C3-5 JDocQA: 図表を含む日本語文書質問応答データセットによる大規模言語モデルチューニング
大南英理 (NAIST), 栗田修平 (理研), 宮西大樹 (ATR), 渡辺太郎 (NAIST)

* SmartESG(シェルパ・アンド・カンパニー)賞

B2-3 疑似参照訳文ベクトルの重心に基づく高速なニューラル最小ベイズリスク復号
出口祥之, 坂井優介, 上垣外英剛, 渡辺太郎 (NAIST)

* メルカリ賞

A7-5 プロンプトの丁寧さと大規模言語モデルの性能の関係検証
尹子旗, 王昊, 堀尾海斗 (早大), 河原大輔 (早大/理研), 関根聡 (理研)

* 博報堂テクノロジーズ賞

P11-26 RLHFを用いた「面白い」短歌の自動生成の試み
羽根田賢和 (東北大), 浦川通, 田口雄哉, 田森秀明 (朝日新聞社), 坂口慶祐 (東北大/理研)

* Helpfeel賞

P2-1 クラスタリングによる自由記述回答の要約と選択肢回答空間に射影による解答群間の連関の可視化

根本颯汰, 藤本一男 (NICT)

■委員特別賞(26件:発表番号順)

発表論文の4%程度を委員特別賞として大会委員長名義で表彰しました。「新規性」や「有用性」に関連する観点を大会賞とは独立に設定し、それらの観点で光るものを大会委員で選出しました。選考基準は以下のとおりです。

- 特定の観点において優れた発表論文を対象論文の4%程度表彰
- 対象論文は599件。4%程度(4.0%~4.4%とした時)は24件~26件。
- 本賞は発表論文に対して授与
- 同一大会の優秀賞論文は審査対象外
- 同一大会の若手奨励賞受賞者の筆頭論文は審査対象外

D1-4 国会集団語の発展段階の分析

松田謙次郎 (神戸松蔭)

P1-19 大規模言語モデルへの刈り込みによる精神疾患の思考障害シミュレーション

直江大河 (昭和大), 原田宥都, 前田ありさ, 森田早織 (東大), 中村啓信 (東京医科歯科大), 大関洋平 (東大), 沖村幸 (昭和大)

B2-5 ニューラル機械翻訳モデルにおける構成的汎化能力の評価

九門涼真, 松岡大樹, 谷中瞳 (東大)

E3-4 長距離相互作用する文脈依存言語における相転移現象 -言語モデルの創発現象を統計力学の視点で理解する-

都地悠馬 (北大), 高橋惇 (ニューメキシコ大), 横井祥 (東北大/理研), 栗林樹生 (MBZUAI), 上田亮 (東大), 宮原英之 (北大)

E4-2 日本語不法行為事件データセットの構築

山田寛章, 徳永健伸 (東工大), 小原隆太郎 (一橋大/中村・角田・松本法律事務所), 得津晶, 竹下啓介, 角田美穂子 (一橋大)

D4-5 日本語旅行記ジオパーズデータセットATD-MCL

東山翔平 (NICT), 大内啓樹 (NAIST), 寺西裕紀 (理研), 大友寛之 (サイバーエージェント), 井手佑翼, 山本和太郎, 進藤裕之, 渡辺太郎 (NAIST)

P4-13 大規模言語モデルによる授業改善に向けた小学校における授業の発話シミュレーション

大西朔永, 児嶋祥成, 椎名広光, 保森智彦 (岡山理科大)

B5-2 ラベル付き系列予測による音声シグナルの Textless 依存構造解析

神藤駿介, 宮尾祐介 (東大)

A5-5 潜在的正規分布によるイベントの時間関係の推定

船曳日佳里 (お茶大), 持橋大地 (統数研), 浅原正幸 (国語研), 小林一郎 (お茶大)

P5-7 大規模言語モデルを用いたEmotional Support Conversation システムの構築とその評価

藤田敦也, 上乃聖, 李晃伸 (名工大)

P5-11 ロボット対話によるインタラクティブ観光プランニング

佐藤京也 (SB Intuitions/都立大), 大萩雅也, 山崎天, 水本智也, 吉川克正 (SB Intuitions)

P5-23 コンタクトセンターにおける人と言語モデルの協働による対話データの作成

伊藤拓海 (MLS/Langsmith), 阿部香央莉 (MLS), 日高雅俊 (MLS/EIS), 野田健一, 岩浅佑一 (トランスコスモス)

E6-1 言語の固有次元を測る

上田亮 (東大), 横井祥 (東北大/理研)

E6-2 意味変化の統計的法則は1000年成り立つ

川崎義史 (東大), 高村大也 (産総研), 永田亮 (甲南大)

A6-3 ichikara-instruction LLMのための日本語インストラクションデータの作成

関根聡 (理研), 安藤まや (フリー), 後藤美知子, 鈴木久美 (理研), 河原大輔 (早大), 井之上直也 (JAIST/理研), 乾健太郎 (MBZUAI/東北大/理研)

P6-15 日本語TruthfulQAの構築

中村友亮, 河原大輔 (早大)

C7-1 音声認識を用いた青空文庫振り仮名注釈付き音声コーパスの構築の試み

佐藤文一 (NDL), 吉永直樹, 豊田正史 (東大), 喜連川優 (ROI/東大)

B7-3 Integrated Gradientsにおける理想の積分ステップ数はインスタンス毎に異なる

牧野雅紘 (東北大), 浅妻佑弥 (東北大/理研), 佐々木翔大 (サイバーエージェント/東北大), 鈴木潤 (東北大/理研)

D7-5 認知ファインチューニング: 眼球運動による大規模言語モデルのファインチューニング

染谷大河, 大関洋平 (東大)

P7-7 Multimodal Large Language Model Meets New Knowledge: A Preliminary Study

Junwen Mo, Jiaxuan Li, Duc Minh Vo, Hideki Nakayama (東大)

P7-18 サッカー実況中継を付加的情報の提供という側面から見る

森雄一郎, 前川在, 小杉哲, 船越孝太郎 (東工大), 高村大也 (産総研), 奥村学 (東工大)

P7-21 大規模視覚言語モデルに関する指示追従能力の検証

塩野大輝, 宮脇峻平 (東北大), 田中涼太 (東北大/NTT), 鈴木潤 (東北大/理研)

E8-3 文字列中からの単語の発見と感覚情報に基づく単語の意味づけを通じた SIR 名付けゲームによる言語の創発

堀江孝文, 谷口彰, 萩原良信, 谷口忠大 (立命館大)

E8-4 統語変形はコミュニケーションから創発するのか?

梶川康平 (東大), 窪田悠介 (国語研), 大関洋平 (東大)

D8-6 評価の階層性に着目した雑談対話システム評価の分析
葛侑磨, 吉永直樹 (東大)

A11-2 大規模言語モデル事前学習の安定化
高瀬翔, 清野舜 (LINEヤフー/SB Intuitions), 小林颯介, 鈴木潤 (東北大)

◇総括

今大会は大規模言語モデルや生成AIで自然言語処理にかつてない注目が集まるなか開催され、参加者数・発表論文数・スポンサー数すべてが過去最多となり、大変盛況となりました。参加者数・発表論文数・スポンサー数の増加に対応するために、実行委員会・プログラム委員会・大会委員会を含め関係者の皆さんには献身的にご尽力いただき、また、様々なアイデアを出していただいたことにより、大きな問題なく大会を終えることができましたと考えています。一部、準備が行き届かなかった点については深くお詫び申し上げますとともに、次回の大会に向け、改善を進めてまいります。

最後に、今大会を支えていただきました参加者・発表者・座長・スポンサー団体の皆さま、特別招待講演・チュートリアル講演者の皆さま、現地開催をご支援いただいた神戸観光局・神戸コンベンションビューローの皆さま、実行委員会・プログラム委員会・渉外担当・大会秘書・業務委託関係先の皆さまに心よりお礼申し上げます。

5. 第19回言語処理若手シンポジウムの開催

◇開催内容

■ 会場と開催形式

- 現地開催
 - 会場: 梅田スカイビル
- 開催期間
 - 2024年9月4日(水)～6日(金)
 - 9月4日(水)10:30-20:00 留学交流会、分野交流ハッカソンwith30周年記念事業
 - 9月5日(木)10:00-19:40 ポスタセッション1日目、チュートリアル、スポンサーセッション、ラウンドテーブル、スペシャルセッション
 - 9月6日(金)10:00-18:40 ポスタセッション2日目、チュートリアル、招待ポスター、目指せ国際会議
- 参加費用
 - 学生 5,000円
 - 社会人 15,000円

■ 参加登録数と発表件数

	参加登録		発表件数	
	学生	社会人	学生	社会人
2024	215	196	161	35

■ スポンサー団体数

合計24社のスポンサーからご支援いただき運営しました。スポンサー費用は、会場代、旅費支援者への旅費などとして使用しました。

- ダイヤモンドスポンサー(100万円) 1社
 - プラチナスポンサー(30万円) 3社
 - ゴールドスポンサー(20万円) 16社
 - シルバースポンサー(5万円) 4社
- 委員の負担軽減のための施策
- 秘書の設置:スポンサー企業とのやりとり、旅費支援対象者に対するやりとりを対応する秘書を設置しました
 - 受付アルバイト:YANS2024の会場に受付を行うアルバイトを2名配置しました。
 - 参加登録サービスの導入:Confitという参加登録サービスを導入しました
 - slackの設置:委員や参加者とのやりとりのためのslackを設置しました
- 各セッションの内容
- 留学交流会:30周年記念事業の一環として実施しました。登壇者の相田さんと永田さんより在外研究や短期留学のtipsについてご講演いただきました。
 - 分野交流ハッカソン:30周年記念事業の一環として実施しました。OpenAI APIを利用した、大喜利ハッカソンと川柳ハッカソンを行いました。93名が参加し、それぞれ8チームずつ、合計16チームで実施しました。
 - チュートリアル:下記の2件のチュートリアルを実施しました
 - 佐藤 竜馬 氏 (国立情報学研究所):ニューラルネットワークの損失地形
 - 荒居 秀尚 氏 (Turing株式会社):生成AIの二大潮流と自動運転
 - ラウンドテーブル:同じテーマに興味を持つ4-6名のグループに分け、テーマに添った議論を行いました。少人数のグループで参加者同士で交流を深めました。
 - スペシャルセッション:「ネットワーキングの極意(友達の作り方)」というテーマで学会初心者が知り合いを増やすための極意やネットワーキングの嬉しさなどについてパネル形式で議論しました。
 - 招待ポスター:分野交流のため自然言語処理分野だけでなく、音声・画像処理などの周辺分野や人文・社会学系の若手研究者や技術者を合計15名お招きしたポスターセッションを実施しました。これまでの研究や展望についてお話いただきました。
 - 目指せ国際会議:国際会議での発表経験のある4名の方から国際会議への道のりについてご紹介いただきました。
 - ポスターセッション:ポスター形式で一般参加者から発表が行われました。合計196件(学生161件、社会人35件)の発表がありました。
- 学生支援の施策
- 右記の2つの条件(YANS2024の第一著者、所属する研究室から旅費が支援されない)を満たす学生8名に対し、往復交通費・参加費・宿泊費を補助しました。上限7万円の実費補助としました。

◇各種表彰

会場の参加者によって選ばれる「デモ賞」「奨励賞」、スポンサー企業が選ぶ「スポンサー賞」、ハッカソン優秀者に対する「優秀賞」「審査員特別賞」「YANS運営委員特別賞」を表彰しました。デモ賞および奨励賞は一般発表196件のうちこれまで奨励賞を受賞したことのない187件を対象とし、参加者からの投票で決定しました。学部・修士・博士・社会人の4属性に発表者を分け、属性ごとに上位15%を目安として表彰しました。

■ デモ賞(1件)

- 柔らかいgrep/KWICに向けて:高速単語列マッチングの埋め込み表現による連続化

- 出口 祥之 (NAIST), 鴨田 豪 (東北大), 松下 祐介 (京大), 慶田 開 (京大), 和賀 正樹 (京大), 横井 祥 (東北大/理研)

■ 奨励賞 (23件)

- 層同士の接続可能性と各層が影響を与える部分空間の重なり度合いの関係性
 - 小林 春斗 (東北大), 原 知正 (東北大), 鴨田 豪 (東北大), 横井 祥 (東北大/理研)
- 不均衡最適輸送を用いた意味変化検出
 - 岸野 稜 (京大), 山際 宏明 (京大), 永田 亮 (甲南大/理研), 横井 祥 (東北大/理研), 下平 英寿 (京大/理研)
- 学習過程における重みのマージによるモデル最適化
 - 渡邊 一功 (早大), 河原 大輔 (早大)
- 「インプレゾンビ」検出のためのデータセット構築と特徴分析
 - 上原 慧大 (横国大), 村山 太一 (横国大)
- ABEMA検索におけるLLMを用いた0件ヒット問題に対する実験と評価
 - 加藤 駿 (慶應大), 犬塚 眞太郎 (サイバーエージェント), 中野 修平 (AbemaTV)
- 強化学習を用いた、言語理解能力を維持したLLM検出器の性能向上
 - 齋藤 幸史郎 (東工大), 小池 隆斗 (東工大), 金子 正弘 (MBZUAI/東工大), 岡崎 直観 (東工大)
- 「ふわふわ」「もったり」ってどう表現するの？ - エージェントとの豊かなコミュニケーションの実現に向けて -
 - 肥田 京佳 (愛工大), 市川 淳貴 (愛工大), 徳久 良子 (愛工大)
- 構成的汎化におけるTransformerの内部機序の分析
 - 九門 涼真 (東大), 谷中 瞳 (東大)
- LLMはなぜ算数が苦手なのか？ Transformerの外挿能力に関する分析
 - 進藤 稜真 (北大), 竹下 昌志 (北大), ジェプカ ラファウ (北大), 伊藤 敏彦 (北大)
- マルチモーダル大規模言語モデルは非言語コミュニケーションを理解しているか？
 - 尾崎 慎太郎 (NAIST), 林 和樹 (NAIST), 大羽 未悠 (NAIST), 坂井 優介 (NAIST), 上垣外 英剛 (NAIST), 渡辺 太郎 (NAIST)
- 大規模言語モデルによる読"舌"術
 - 坂上 温紀 (NAIST), 坂井 優介 (NAIST), 上垣外 英剛 (NAIST), 渡辺 太郎 (NAIST)
- 多言語モデルの埋め込み表現の理解に向けた独立成分分析による可視化
 - 北野 雄士 (NAIST), 西田 悠人 (NAIST), 坂上 温紀 (NAIST), 上垣外 英剛 (NAIST), 渡辺 太郎 (NAIST)
- 人間とLLMが考える"面白い"は一致するのか？
 - 坂部 立 (一橋大), 金 輝燦 (都立大), 小町 守 (一橋大)
- LLMは真面目・不真面目になれるか？
 - 堀尾 海斗 (早大), 河原 大輔 (早大)
- 人の言語を模倣するのに必要十分な言語モデルの大きさはどれだけか
 - 山本 悠士 (東京理科大), 上田 亮 (東大), 唐木田 亮 (産総研), 横井 祥 (東北大/理研)
- Multilingual LLM への指示文は本当に英語であるべきなのか？
 - 榎本 大晟 (都立大), 金 輝燦 (都立大), 陳 宙斯 (一橋大), 小町 守 (一橋大)
- Attentionに基づく大規模言語モデルのHallucination検出手法の検討
 - 小笠 雄也 (阪大), 梶原 智之 (愛媛大), 荒瀬 由紀 (東工大)
- 大規模言語モデルにおける相転移と自然言語の関係

- 中石 海 (東大), 西川 宜彦 (北里大), 福島 孝治 (東大)
 - 日本語に特化した汎用テキスト埋め込みモデルの開発
 - 塚越 駿 (名大), 笹野 遼平 (名大)
 - 言語モデルの日本語道徳理解能力の評価データセットの構築
 - 竹下 昌志 (北大), ジェプカ ラファウ (北大)
 - ゲームの台詞を題材としたキャラクターらしさを構成する要素の検討
 - 岩田 伸治 (サイバーエージェント), 伊原 滉也 (サイバーエージェント), 佐藤 志貴 (サイバーエージェント), 馬場 惇 (サイバーエージェント), 邊土名 朝飛 (サイバーエージェント), 山崎 眞洋 (QualiArts), 塩塚 勇氣 (QualiArts), 吉本 暁文 (サイバーエージェント)
 - 自動運転のための言語・視覚・動作の統合データセットの構築
 - 三輪 敬太 (Turing/東大), 荒居 秀尚 (Turing), 佐々木 謙人 (Turing/筑波大), 渡辺 晃平 (Turing), 山口 祐 (Turing/慶應大)
 - 質問の言語表現が大規模言語モデルの回答傾向に与える影響の調査
 - 高山 隼矢 (SB Intuitions), 大萩 雅也 (SB Intuitions), 水本 智也 (SB Intuitions), 吉川 克正 (SB Intuitions)
- スポンサー賞(19件)
- * サイバーエージェント賞
 - 強化学習を用いた、言語理解能力を維持したLLM検出器の性能向上
 - 齋藤 幸史郎 (東工大), 小池 隆斗 (東工大), 金子 正弘 (MBZUAI/東工大), 岡崎 直観 (東工大)
 - チェックリストを利用した生成系タスクの網羅的評価
 - 古橋 萌々香 (東北大/NII), 中山 功太 (NII), 児玉 貴志 (NII), 菅原 朔 (NII), 関根 聡 (NII/理研), 宮尾 祐介 (東大/NII)
 - * フューチャー株式会社賞
 - 日本語の単語を対象とした複数時期の意味変化パターン分析
 - 木山 朔 (都立大), 相田 太一 (都立大), 小町 守 (一橋大), 小木曾 智信 (国語研), 高村 大也 (産総研), 持橋 大地 (統数研)
 - * SB Intuitions株式会社賞
 - チェックリストを利用した生成系タスクの網羅的評価
 - 古橋 萌々香 (東北大/NII), 中山 功太 (NII), 児玉 貴志 (NII), 菅原 朔 (NII), 関根 聡 (NII/理研), 宮尾 祐介 (東大/NII)
 - * 株式会社リクルート賞
 - 柔らかいgrep/KWICに向けて: 高速単語列マッチングの埋め込み表現による連続化
 - 出口 祥之 (NAIST), 鴨田 豪 (東北大), 松下 祐介 (京大), 慶田 開 (京大), 和賀 正樹 (京大), 横井 祥 (東北大/理研)
 - * 日本経済新聞社日経イノベーション・ラボ賞
 - 語順に制約されない大規模言語モデルの知識編集
 - 石垣 龍馬 (東京電機大), 鈴木 順大 (東京電機大), 酒造 正樹 (東京電機大), 前田 英作 (東京電機大)
 - * 株式会社PKSHA Technology賞
 - 日本語に特化した汎用テキスト埋め込みモデルの開発
 - 塚越 駿 (名大), 笹野 遼平 (名大)
 - * シェルパ・アンド・カンパニー賞
 - LLMを用いた自由記述アンケートの質的分析
 - 橋本 清斗 (NAIST), 荒牧 英治 (NAIST), 若宮 翔子 (NAIST), 矢田 竣太郎 (NAIST), 工藤 紀子 (NAIST)
 - * 株式会社エクサウィザーズ賞

- 有価証券報告書を対象とした質問応答タスクのデータセット構築とLLMを用いた手法の評価
 - 佐藤 栄作 (小樽商大), 木村 泰知 (小樽商大)
- * 株式会社マネーフォワード賞
 - 人の言語を模倣するのに必要十分な言語モデルの大きさはどれだけか
 - 山本 悠士 (東京理科大), 上田 亮 (東大), 唐木田 亮 (産総研), 横井 祥 (東北大/理研)
- * 株式会社オルツ賞
 - LLMはなぜ算数が苦手なのか? Transformerの外挿能力に関する分析
 - 進藤 稜真 (北大), 竹下 昌志 (北大), ジェブカラファウ (北大), 伊藤 敏彦 (北大)
- * 株式会社ELYZA賞
 - Attentionに基づく大規模言語モデルのHallucination検出手法の検討
 - 小笠 雄也 (阪大), 梶原 智之 (愛媛大), 荒瀬 由紀 (東工大)
- * Aww, Inc.賞
 - 大規模言語モデルによる11種類の日本語スタイル変換の性能評価
 - 花房 健太郎 (愛媛大), 柳本 大輝 (愛媛大), 梶原 智之 (愛媛大), 二宮 崇 (愛媛大)
- * 株式会社博報堂テクノロジーズ賞
 - 言語モデルは人々の意見分布をどのように予測するか
 - 鈴木 刀磨 (NAIST), 片山 歩希 (NAIST), 郷原 聖士 (NAIST), 辻本 陵 (NAIST), 中谷 響 (NAIST), 林 和樹 (NAIST), 上垣外 英剛 (NAIST), 渡辺 太郎 (NAIST)
- * スtockマーク株式会社賞
 - LLMはなぜ算数が苦手なのか? Transformerの外挿能力に関する分析
 - 進藤 稜真 (北大), 竹下 昌志 (北大), ジェブカラファウ (北大), 伊藤 敏彦 (北大)
- * 株式会社IVRy賞
 - Text-to-audioにおける評価指標CLAP-Scoreの性能分析
 - 高野 大成 (東大), 岡本 悠希 (東大), 齋藤 佑樹 (東大)
- * Spiral.AI株式会社賞
 - LLMの"衝突回避": LLMと制御理論の融合
 - 宮岡 佑弥 (慶應大), 井上 正樹 (慶應大)
- * Turing株式会社賞
 - 大規模視覚言語モデルの潜在的バイアスを利用した幻覚の抑制方法の提案
 - 大平 颯人 (一橋大), 平澤 寅庄 (OSX), 小町 守 (一橋大)
- * 株式会社日立製作所賞
 - 指示数増加による大規模言語モデルの指示追従性能への悪影響
 - 原田 憲旺 (東大), 山崎 友大 (京大), 谷口 仁慈 (琉球大), 小島 武 (東大), 岩澤 有祐 (東大), 松尾 豊 (東大)
- ハッカソン賞
 - * 大喜利ハッカソン 優秀賞
 - チーム8 - Say*2 Do*2
 - 大塚晴貴(愛工大), 高橋利孔(はこだて未来大), 宮岡佑弥(慶應大), 峯悠大(NAIST), 塚越袖季(東大), 櫻井亮佑(日経新聞社)
 - * 川柳ハッカソン 優秀賞
 - チームB - Baseline B
 - 高橋侑成(東工大), 岩國巧(NAIST), 加藤大地(東大), 塩野大輝(東北大), 辻航平(NAIST), 高山隼矢(SB Intuitions)
 - * 大喜利ハッカソン 審査員特別賞
 - チーム3 - AIPPON GRAND PRIX
 - 李宰成(東北大), 進藤稜真(北大), 鈴木刀磨(NAIST), 吉見菜那(愛媛大), 高城頌太(東大), 高橋洸丞(Stockmark)
 - * 川柳ハッカソン 審査員特別賞

- チームF - えふ
 - 福島啓太(愛媛大), 森江梨花(慶應大), 武内樹治(奈良文化財研究所), 郷原聖士(NAIST), 稲岡夢人(Faber Company)
- * 大喜利ハッカソン YANS運営委員特別賞
 - チーム6 - ポケモコードも仕込中
 - 山口真(静岡大), 岩川光一(東北大), 大平颯人(一橋大), 齋藤大輔(名工大), 斉志揚(電通大), 稲原宗能(PKSHA)
- * 川柳ハッカソン YANS運営委員特別賞
 - チームG - thymz(タイムズ)
 - 朱瀬丞(東北大), 守山慧(東大), 服部翔(東工大), 樽本空宙(愛媛大), 山口智之(村田製作所)

6. ニュースレターの発行

2024年にはニュースレターVol.31 No.1 と No.2 を発行し, 学会運営, 大会案内, 大会優秀賞, 論文賞などについて会員の皆さまへの情報提供を行いました。

7. 理事会の開催

計 8 回の理事会を開催し, 入退会会員の承認, 事業計画, 予算, 論文賞選考, 年次大会, 若手シンポジウム, 年次大会優秀賞, ニュースレター発行, 関連学会等への協賛等について審議し決定しました。また, 言語処理技術セミナーの開催や学会運営についても議論しました。

理事会開催:

- 第 164 回 (2024 年 1 月 10 日, 書面決議)
- 第 165 回 (2024 年 1 月 24 日, オンライン)
- 第 166 回 (2024 年 3 月 8 日, オンライン)
- 第 167 回 (2024 年 3 月 13 日, 神戸国際会議場)
- 第 168 回 (2024 年 5 月 17 日, 国立情報学研究所およびオンライン)
- 第 169 回 (2024 年 7 月 8 日, オンライン)
- 第 170 回 (2024 年 9 月 13 日, オンライン)
- 第 171 回 (2024 年 11 月 18 日, オンライン)

8. 編集委員会

◇編集委員会の会議

2024年は, 編集委員会を2回開催したほか, 随時, メール審議の形式で編集委員会を開催し, 採否決定の一層の迅速化に努めました。

編集委員会開催:

- 第110回(2024年3月12日, ハイブリッド会議)
- 第111回(2024年9月20日, 遠隔会議(Zoom))

◇英文校正サービス

2024年掲載論文について, 23件の論文のタイトルと概要の英文校正ならびに13件の英文論文の本文の英文校正を実施しました。

◇2024年度論文賞の選考

2024年度論文賞は, 2024年に出版された自然言語処理31巻1号から4号に掲載された論文52編より, 編集委員会が賞に相応しい論文4-5編程度を推薦することを目標として, 実施しました。

. 選考は以下の手続きで実施し、一次投票は浅原正幸副編集長を選考委員長として編集委員47名が、二次投票は荒瀬由紀副編集長を最終選考委員長として編集委員17名が、それぞれ選考委員会を編成して審査を行いました。

(最優秀論文賞)

最優秀論文賞1件につきましては年次大会の招待論文セッションで発表いたします。

(論文賞)※掲載順

著者名: 有山 知希, 鈴木 潤, 鈴木 正敏, 田中 涼太, 赤間 怜奈, 西田 京介

論文タイトル: クイズコンペティションの結果分析から見た日本語質問応答の到達点と課題

発行巻号頁: Vol.31 No.1, pp.47-78

著者名: Youmi Ma, An Wang, 岡崎 直観

論文タイトル: 文書レベル関係抽出における根拠認識の統合

発行巻号頁: Vol.31 No.1, pp.105-133

著者名: 大羽 未悠, 栗林 樹生, 大内 啓樹, 渡辺 太郎

論文タイトル: 言語モデルの第二言語獲得

発行巻号頁: Vol.31 No.2, pp.433-455

著者名: 杉本 智紀, 尾上 康雅, 谷中 瞳

論文タイトル: アスペクトを考慮した日本語時間推論データセットの構築

発行巻号頁: Vol.31 No.2, pp.637-679

著者名: 坂井 優介, 上垣外 英剛, 林 克彦, 渡辺 太郎

論文タイトル: 未知の知識に対する事前学習済み言語モデルが持つ推論能力の調査

発行巻号頁: Vol.31 No.4, pp. 1427-1457

◇論文掲載数および投稿数

2024年は、通常号4号を出版し、総計52編の論文を刊行しました。「自然言語処理」への2024年の通常論文投稿数は、昨年の1.1倍の60編でした。

9. 助成, 協賛, 後援

以下の会議への助成, 協賛, 後援を行いました。

- (1) The 17th International Conference on Natural Language Generation (INLG) (助成)
産業技術総合研究所臨海副都心センター・日本科学未来館 2024年9月23日～27日
- (2) 第33回JTF翻訳祭2024 (後援)
金沢市文化ホール / オンライン 2024年10月24日～11月30日
- (3) 第23回 ロボット聴覚オープンソースソフトウェアHARK講習会 (協賛)
東京科学大学大岡山キャンパス 2024年11月29日
- (4) AAMT 2024 (後援)
AP 虎ノ門 / オンライン 2024年12月3日
- (5) IDR ユーザフォーラム 2024 (後援)

- 一橋講堂中会議場 2024年12月13日
(6) 人工知能学会 合同研究会 2024 (協賛)
慶應義塾大学日吉キャンパス協生館・来往舎 2024年12月20日～21日

10. 30周年記念事業

次の30周年記念事業を実施しました。

- (1) 記念シンポジウムの開催
- (2) フェロー新設と表彰
- (3) 記念論文賞の選定と表彰
- (4) 留学支援交流会および経済支援実施
- (5) 分野交流ハッカソンおよび教材キュレーションの実施
- (6) 特別言語処理技術セミナーの実施
- (7) 記念事業に関する学会記事の寄稿

11. その他

昨年に引き続き、言語処理技術セミナーを開催しました。今年は30周年記念特別編として、「言語分析のための言語処理・深層学習」というテーマで講師は永田亮先生(甲南大学/理研AIP/産総研)、川崎義史先生(東京大学)、内田愉先生(九州大学)にお願いし、ハンズオンセミナーとして企画しました。当初2024年8月30日に予定しておりましたが、台風の影響により日程を改めて参加募集を募り、2024年11月2日に甲南大学ネットワークキャンパス東京にて開催しました。言語処理学会会員および学生(非会員含む)は無料として開催し、30名の方々にご参加いただきました。

12. その他:学会HPのモダナイゼーション

学会HPが老朽化のため、サン・フレア(株)にリニューアルをお願いしました。リニューアル公開は2025年2月中旬の予定です。

一般社団法人言語処理学会 正味財産増減計算書

2024年 1月 1日から2024年12月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差異	備考
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取会費	[13,046,000]	[14,150,000]	[-1,104,000]	
正会員受取会費	(9,056,000)	(9,680,000)	(-624,000)	
正会員当年度	8,924,000	9,528,000	-604,000	@8,000円×1191名
正会員過年度	64,000	88,000	-24,000	@8,000円×11名
正会員(シニア)当年度	68,000	60,000	8,000	@4,000円×15名
正会員(シニア)過年度	0	4,000	-4,000	
学生会員受取会費	(2,340,000)	(2,520,000)	(-180,000)	
学生会員当年度	2,320,000	2,488,000	-168,000	@4,000円×622名
学生会員過年度	20,000	32,000	-12,000	@4,000円×8名
賛助会員受取会費	(1,650,000)	(1,950,000)	(-300,000)	
賛助会員当年度	1,550,000	1,950,000	-400,000	1口50,000円×39口
賛助会員過年度	100,000	0	100,000	
事業収益	[60,473,000]	[66,508,877]	[-6,035,877]	
学術研究事業(年次大会)	(47,548,000)	(53,323,300)	(-5,775,300)	
年次大会参加費	21,334,000	27,003,500	-5,669,500	
年次大会懇親会費	4,800,000	3,860,000	940,000	懇親会実施
年次大会協賛・広告	18,535,000	22,459,800	-3,924,800	
年次大会助成・補助	2,879,000	0	2,879,000	
普及啓発事業(HP・刊行物等)	(4,225,000)	(4,425,000)	(-200,000)	
論文誌広告料	0	0	0	
掲載料	4,015,000	4,335,000	-320,000	
産業界向けイベント参加費	210,000	90,000	120,000	
若手向けイベント	(8,700,000)	(8,760,577)	(-60,577)	
イベント参加費	3,250,000	3,510,577	-260,577	
イベント協賛・広告	5,450,000	5,250,000	200,000	
受取補助金等	[0]	[0]	[0]	
雑収益	[822,076]	[456,667]	[365,409]	
受取利息	245	1,055	-810	
雑収益	821,831	455,612	366,219	
経常収益計	74,341,076	81,115,544	-6,774,468	
(2) 経常費用				
事業費	[75,358,467]	[75,394,160]	[-35,693]	
年次大会開催費	(47,722,812)	(52,738,748)	(-5,015,936)	
年次大会運営サポート費	16,038,581	17,432,782	-1,394,201	
受付代行費	3,648,519	4,180,678	-532,159	
資料作成費(印刷費)	267,498	158,136	109,362	
コンファレンスバック代	0	0	0	
貸切バス・路線バス増発費	1,300,000	0	1,300,000	
プログラム委員会費	1,175,000	861,920	313,080	STARTシステム利用料、ウェブ作業費
年次大会会場費	12,005,414	21,558,752	-9,553,338	
年次大会人件費	1,500,000	1,094,910	405,090	
年次大会講師謝金等	600,000	540,541	59,459	
論文賞招待旅費	140,000	86,062	53,938	
代議員会等会議費	0	51,920	-51,920	
表彰関係費	700,000	833,849	-133,849	
年次大会懇親会費	5,800,000	4,596,701	1,203,299	懇親会実施
実行委員会費	3,882,800	519,937	3,362,863	現地視察旅費, 実行委員会雑費ほか
託児委託費	165,000	0	165,000	
年次大会雑費	500,000	822,560	-322,560	保険料
普及啓発事業	(7,991,055)	(9,244,824)	(-1,253,769)	
論文誌編集費	4,644,640	5,789,740	-1,145,100	
論文誌電子化費用	276,100	319,000	-42,900	
編集委員会費	650,000	549,608	100,392	査読・執筆謝礼・編集委員旅費
編集事務局費	1,400,695	1,776,960	-376,265	編集事務局給与
論文誌活性化支援	487,151	549,006	-61,855	英文校正等の国際化支援
表彰関係費	532,469	181,140	351,329	論文誌の優秀賞の賞金、賞状等
若手研究者等の支援	0	0	0	若手研究者の研究會等の支援
国際会議開催費	0	0	0	
国際会議参加支援費	0	0	0	
産業界向けイベント開催費	0	0	0	
普及啓発事業雑費	0	79,370	-79,370	
記念事業費用	0	0	0	
記念事業費用	(11,114,600)	(6,066,578)	(5,048,022)	
旅費	3,650,000	119,408	3,530,592	30周年記念事業
会場費	1,664,600	1,398,064	266,536	委員旅費, 講師など旅費
支援金	900,000	900,000	0	留学支援金
謝金	1,140,000	1,057,269	82,731	
賞金	200,000	200,000	0	
機器利用料	400,000	0	400,000	
業務委託費	1,500,000	901,265	598,735	
通信費	980,000	1,343,512	-363,512	シンポジウム中継用
物品費	500,000	123,699	376,301	認証状、賞状など
雑費	180,000	23,361	156,639	物品など
若手向けイベント費用	(8,530,000)	(7,344,010)	(1,185,990)	
旅費	1,540,000	165,641	1,374,359	
会場費	4,500,000	4,416,518	83,482	
支援金	350,000	339,333	10,667	学生旅費支援
謝金	240,000	592,016	-352,016	招待講演、チュートリアル講演
賞金	200,000	459,279	-259,279	
機器利用料	0	0	0	
業務委託費	1,500,000	1,316,414	183,586	
通信費	0	0	0	
物品費	100,000	52,979	47,021	
雑費	100,000	1,830	98,170	

管理費	[6,037,549]	[4,988,713]	[1,048,836]	
代議員選挙費用	(0)	(0)	(0)	2年ごと(奇数年)
業務委託費	(4,303,735)	(3,328,006)	(975,729)	
学会事務委託費	2,814,735	2,814,790	-55	中西印刷(株)委託費(偶数年末契約更新)
総務事務局費	960,000	0	960,000	2024年度は委託なし
税理士報酬	412,500	412,500	0	
社労士報酬	16,500	16,500	0	2020から税理士報酬より分離
司法書士報酬	100,000	84,216	15,784	理事変更登記,約10万円,2年ごと(偶数年)
会費集金費	(659,533)	(813,276)	(-153,743)	
通信運搬費	(324,669)	(145,431)	(179,238)	
租税公課	(310,800)	(545,700)	(-234,900)	法人市民税・住民税・消費税
振込手数料	(36,990)	(71,347)	(-34,357)	
HP関連経費	(35,162)	(39,561)	(-4,399)	
HP改修費用	(0)	(0)	(0)	
理事会旅費	(185,560)	(28,676)	(156,884)	
雑費	(181,100)	(16,716)	(164,384)	総会資料作成費、会議室利用料、労働保険料ほか
経常費用計	81,396,016	80,382,873	1,013,143	
当期経常収支差額	-7,054,940	732,671	-7,787,611	
2. 経常外増減の部			0	
(1) 経常外収益	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外収支差額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	-7,054,940	732,671	-7,787,611	
一般正味財産期首残高	66,553,561	66,549,584	3,977	
一般正味財産期末残高	59,498,621	67,282,255	-7,783,634	

貸借対照表

2024年12月31日現在

一般社団法人 言語処理学会
一般会計

(単位：円)

科 目	当年度
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	73,059,480
前払金	6,049,785
流動資産合計	79,109,265
資産合計	79,109,265
II 負債の部	
1. 流動負債	
未払金	2,012,010
前受金	55,000
前受会費	9,760,000
流動負債合計	11,827,010
負債合計	11,827,010
III 正味財産の部	
1. 指定正味財産	
指定正味財産合計	0
2. 一般正味財産	67,282,255
正味財産合計	67,282,255
負債及び正味財産合計	79,109,265

財産目録

2024年12月31日現在

一般社団法人 言語処理学会
一般会計

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)			
現金 預金	手元保管 銀行預金	運転資金として	23,971
	ゆうちょ振替口座		73,035,509
	みずほ銀行		44,598,166
	ゆうちょ総合口座		20,899,192
			7,538,151
前払金			6,049,785
流動資産合計			79,109,265
資産合計			79,109,265
(流動負債)			
未払金			2,012,010
前受金			55,000
前受会費			9,760,000
前受正会員			5,664,000
前受学生会員			848,000
前受賛助会費			3,200,000
前受正会員(シニア)会費			48,000
流動負債合計			11,827,010
負債合計			11,827,010
正味財産			67,282,255

附属明細書

貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書として記載すべき事項はありません。

財務諸表に対する注記

1. 継続組織の前提に関する注記

継続組織の前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況はない。

2. 重要な会計方針

「公益法人会計基準」(平成20年4月11日 平成21年10月16日 令和2年5月15日改正 内閣府公益認定等委員会)を適用している。

(1) 消費税等の会計処理

消費税の会計処理は税込方式によっている。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産	0	0	0	0
特定資産	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

4. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	債権金額	貸倒引当金の 当期末残高	債権の当期末 残高
未収金	0	0	0
合計	0	0	0

一般社団法人言語処理学会 正味財産増減計算書

2024年 1月 1日から2024年12月31日まで

(単位:円)

科 目	決算額	備考
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
受取会費	[14,150,000]	
正会員受取会費	(9,680,000)	
正会員当年度	9,528,000	@8,000円×1191名
正会員過年度	88,000	@8,000円×11名
正会員(シニア)当年度	60,000	@4,000円×15名
正会員(シニア)過年度	4,000	
学生会員受取会費	(2,520,000)	
学生会員当年度	2,488,000	@4,000円×622名
学生会員過年度	32,000	@4,000円×8名
賛助会員受取会費	(1,950,000)	
賛助会員当年度	1,950,000	1口50,000円×39口
賛助会員過年度	0	
事業収益	[66,508,877]	
学術研究事業(年次大会)	(53,323,300)	
年次大会参加費	27,003,500	
年次大会懇親会費	3,860,000	懇親会実施
年次大会協賛・広告	22,459,800	
年次大会助成・補助	0	
普及啓発事業(HP・刊行物等)	(4,425,000)	
論文誌広告料	0	
掲載料	4,335,000	
産業界向けイベント参加費	90,000	
若手向けイベント	(8,760,577)	
イベント参加費	3,510,577	
イベント協賛・広告	5,250,000	
受取補助金等	[0]	
雑収益	[456,667]	
受取利息	1,055	
雑収益	455,612	
経常収益計	81,115,544	
(2) 経常費用		
事業費	[75,394,160]	
年次大会開催費	(52,738,748)	
年次大会運営サポート費	17,432,782	
受付代行費	4,180,678	
資料作成費(印刷費)	158,136	
コンファレンスバック代	0	
貸切バス・路線バス増発費	0	
プログラム委員会費	861,920	STARTシステム利用料、ウェブ作業費
年次大会会場費	21,558,752	
年次大会人件費	1,094,910	
年次大会講師謝金等	540,541	
論文賞招待旅費	86,062	
代議員会等会議費	51,920	
表彰関係費	833,849	
年次大会懇親会費	4,596,701	懇親会実施
実行委員会費	519,937	現地視察旅費、実行委員会雑費ほか
託児委託費	0	
年次大会雑費	822,560	保険料
普及啓発事業	(9,244,824)	
論文誌編集費	5,789,740	
論文誌電子化費用	319,000	
編集委員会費	549,608	査読・執筆謝礼・編集委員旅費
編集事務局費	1,776,960	編集事務局給与
論文誌活性化支援	549,006	英文校正等の国際化支援
表彰関係費	181,140	論文誌の優秀賞の賞金、賞状等
若手研究者等の支援	0	若手研究者の研究会等の支援
国際会議開催費	0	
国際会議参加支援費	0	
産業界向けイベント開催費	0	
普及啓発事業雑費	79,370	2024年は記念事業の一環として実施
記念事業費用	0	スポンサー費、IMT分担金、弁護士相談料 等
記念事業費用	(6,066,578)	
旅費	119,408	30周年記念事業
会場費	1,398,064	委員旅費、講師など旅費
支援金	900,000	留学支援金
謝金	1,057,269	
賞金	200,000	
機器利用料	0	
業務委託費	901,265	
通信費	1,343,512	シンポジウム中継用
物品費	123,699	認証状、賞状など
雑費	23,361	物品など

若手向けイベント費用	(7,344,010)	
旅費	165,641	
会場費	4,416,518	
支援金	339,333	学生旅費支援
謝金	592,016	招待講演、チュートリアル講演
賞金	459,279	
機器利用料	0	
業務委託費	1,316,414	
通信費	0	
物品費	52,979	
雑費	1,830	
管理費	[4,988,713]	
代議員選挙費用	(0)	2年ごと(奇数年)
業務委託費	(3,328,006)	
学会事務委託費	2,814,790	中西印刷(株)委託費(偶数年末契約更新)
総務事務局費	0	2024年度は委託なし
税理士報酬	412,500	2020から税理士報酬より分離
社労士報酬	16,500	理事変更登記,約10万円,2年ごと(偶数年)
司法書士報酬	84,216	
会費集金費	(813,276)	
通信運搬費	(145,431)	
租税公課	(545,700)	法人市民税・住民税・消費税
振込手数料	(71,347)	
HP関連経費	(39,561)	
HP改修費用	(0)	
理事会旅費	(28,676)	
雑費	(16,716)	総会資料作成費、会議室利用料、労働保険料ほか
経常費用計	80,382,873	
当期経常収支差額	732,671	
2. 経常外増減の部		
(1) 経常外収益	0	
経常外収益計	0	
(2) 経常外費用	0	
経常外費用計	0	
当期経常外収支差額	0	
当期一般正味財産増減額	732,671	
一般正味財産期首残高	66,549,584	
一般正味財産期末残高	67,282,255	

●上記の通り報告いたします。

一般社団法人言語処理学会財務理事

藤田 早苗



一般社団法人言語処理学会財務理事

田村 晃裕



●監査の結果、上記の結果に相違ありません。

一般社団法人言語処理学会 監事

山下 達雄



一般社団法人言語処理学会 監事

富士 秀



2025年 1月31日

監査報告書

2025年 / 月3 / 日

一般社団法人 言語処理学会

会長 黒橋 禎夫 殿

一般社団法人 言語処理学会

監事 山下 達雄 
監事 富士 秀 

私たちは2024年1月1日から2024年12月31日までの2024年度における一般社団法人言語処理学会の会計および業務の監査を行い、その結果を報告します。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査については、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査については、理事会への出席、理事からの報告の聴取、関係書類の閲覧などを行い、業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査の結果

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録は会計帳簿の記載金額と一致、法人の財政状況を正しくしめしているものと認めます。
- (2) 事業報告の内容は、事実に従い、法人の状況を正しく示していると認めます。

以上

2025年度事業計画

1. 運営・活動方針

論文誌「自然言語処理」の発行、年次大会・言語処理技術セミナーの開催など、当会の目的に沿った運営・活動を進めます。また、学会活動を支えるITインフラの整理・拡充を始めとする学会運営体制の活性化・合理化に努めるほか、2024年度の学会30周年を機に企画・実施をはじめた、若手支援等の事業をさらに充実させます。

2. 会誌の発行

- ・第32巻第1号(2025年3月中旬発行予定、通巻143号)
- ・第32巻第2号(2025年6月中旬発行予定、通巻144号)
- ・第32巻第3号(2025年9月中旬発行予定、通巻145号)
- ・第32巻第4号(2025年12月中旬発行予定、通巻146号)

第28巻第1号からJ-STAGE上のオンライン出版に移行しました。また、2018年1月より同期式査読に移行し、すべての通常号の編集を予め設定したスケジュールに従って行っています。これにより「〇月〇日までに投稿すれば△月△日までに必ず採否が決まる」というように日程が保証されています。編集スケジュールは学会ウェブページに掲載しています。

3. 第31回年次大会の開催

2025年3月10日(月)～3月14日(金)に第31回年次大会を出島メッセ長崎にて開催します。前回に引き続きハイブリッド形式とし、発表者・参加者の増加に伴う諸課題への対策、実行委員会・プログラム委員会の委員の負担軽減を進めています。その一環として、これまで単年度で委嘱していた実行委員長を今回から実行副委員長を経ての2期制としました。また、数年前から先延ばしになっていた論文投稿システムのバージョンアップを今回行う予定です。

4. ニュースレターの発行

原則として、前年と同様の回数と内容で発行予定です。学会のメーリングリストを通じて配布します。これらは、学会のホームページにバックナンバーとして公開します。

5. 会議

◇社員総会

2025年3月の年次大会に併せて、2025年度社員総会を開催します。予算・決算、学会全体の活動の活性化に向けた施策、関連する研究分野との交流の促進などについて審議、承認します。

◇理事会

昨年度同様に6回程度開催します。論文等の電子的公開、年次大会の開催、他学会との連携などについて審議します。

◇編集委員会

編集委員会は、メールによる審議をベースとし、これまで通りの効率的な運営に努めます。会誌をより活性化し、会員にとってさらに魅力的なものとするために、論文の投稿促進施策や、学会記事の企画などを継続的に検討します。

6. 言語処理技術セミナー

自然言語処理技術の裾野を広げるため、人文・社会科学系の方を対象としたセミナーを開催します。30周年記念事業からの継続として、年間2回の開催を予定しています。

7. 表彰事業

30周年記念事業で新設した「言語処理学会フェロー」制度を継続します。会員の特色ある活動を顕彰するための新たな表彰制度を検討します。

8. 若手支援事業

自然言語処理および周辺技術に携わる若手のための研究・交流のため、シンポジウムおよび懇親会を実施します。

9. その他

言語処理技術が社会に与える影響が急速に増大する中、言語処理技術に関する正確な情報および言語処理研究の魅力を、非専門家も含めた幅広い層に発信するための方法を検討し、可能な箇所から着手します。

一般社団法人言語処理学会 予算書

(単位:円)

科 目	2025予算額	2024予算額	2024決算額	備考(予算書より)
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取会費	[17,248,400]	[13,046,000]	[14,150,000]	
正会員受取会費	(10,386,400)	(9,056,000)	(9,680,000)	
正会員当年度	10,320,000	8,924,000	9,528,000	@8,000円×1290名
正会員過年度	2,400	64,000	88,000	@8,000円×3名
正会員(シニア)当年度	60,000	68,000	60,000	@4,000円×15名
正会員(シニア)過年度	4,000	0	4,000	@4,000円×1名
学生会員受取会費	(3,112,000)	(2,340,000)	(2,520,000)	
学生会員当年度	3,100,000	2,320,000	2,488,000	@4,000円×775名
学生会員過年度	12,000	20,000	32,000	@4,000円×3名
賛助会員受取会費	(3,750,000)	(1,650,000)	(1,950,000)	
賛助会員当年度	3,750,000	1,550,000	1,950,000	1口50,000円×75口
賛助会員過年度	0	100,000	0	
事業収益	[69,666,000]	[60,473,000]	[66,508,877]	
学術研究事業(年次大会)	(54,301,000)	(47,548,000)	(53,323,300)	
年次大会参加費	24,211,000	21,334,000	27,003,500	
年次大会懇親会費	3,900,000	4,800,000	3,860,000	懇親会実施予定
年次大会協賛・広告	24,090,000	18,535,000	22,459,800	
年次大会助成・補助	2,100,000	2,879,000	0	
普及啓発事業(HP・刊行物等)	(4,515,000)	(4,225,000)	(4,425,000)	
論文誌広告料	0	0	0	
掲載料	4,200,000	4,015,000	4,335,000	
産業界向けイベント参加費	315,000	210,000	90,000	
若手向けイベント	(10,850,000)	(8,700,000)	(8,760,577)	
イベント参加費	4,400,000	3,250,000	3,510,577	
イベント協賛・広告	6,450,000	5,450,000	5,250,000	
受取補助金等	[0]	[0]	[0]	
雑収益	[494,012]	[822,076]	[456,667]	
受取利息	1,055	245	1,055	
雑収益	492,957	821,831	455,612	
経常収益計	87,408,412	74,341,076	81,115,544	
(2) 経常費用				
事業費	[78,184,086]	[75,358,467]	[75,384,160]	
年次大会開催費	(53,013,654)	(47,722,812)	(52,738,748)	
年次大会運営サポート費	17,151,388	16,038,581	17,432,782	
受付代行費	3,856,320	3,648,519	4,180,678	
資料作成費(印刷費)	158,400	267,498	158,136	
コンファレンスバック代	0	0	0	
貸切バス・路線バス増発費	1,110,000	1,300,000	861,920	STARTシステム利用料、ウェブ作業費
プログラム委員会費	21,947,546	12,005,414	21,558,752	
年次大会会場費	1,100,000	1,500,000	1,094,910	
年次大会講師謝金等	600,000	600,000	540,541	
論文賞招待旅費	200,000	140,000	86,062	
代議員会等会議費	50,000	0	51,920	
表彰関係費	840,000	700,000	833,849	
年次大会懇親会費	4,100,000	5,800,000	4,596,701	懇親会実施予定
実行委員会費	900,000	3,882,800	519,937	現地視察旅費、実行委員会雑費ほか
託児委託費	150,000	165,000	0	
年次大会雑費	850,000	500,000	822,560	講師謝礼ほか
普及啓発事業	(8,978,242)	(7,991,055)	(9,244,824)	
論文誌編集費	5,108,730	4,644,640	5,789,740	
論文誌電子化費用	299,200	276,100	319,000	
編集委員会費	700,000	650,000	549,608	査読・執筆謝礼・編集委員旅費
編集事務局費	1,968,000	1,400,695	1,776,960	編集事務局給与
論文誌活性化支援	641,802	487,151	549,006	英文校正等の国際化支援
表彰関係費	181,140	532,469	181,140	論文誌の優秀賞の賞金、賞状等
若手研究者等の支援	0	0	0	若手研究者の研究会等の支援
国際会議開催費	0	0	0	
国際会議参加支援費	0	0	0	
普及啓発事業雑費	79,370	0	79,370	IMT分担金等、弁護士相談料
記念事業費用	(1,200,000)	(11,114,600)	(6,066,578)	
旅費	300,000	3,650,000	119,408	30周年記念事業
会場費	0	1,664,600	1,398,064	委員旅費、講師など旅費
支援金	900,000	900,000	900,000	留学経済支援金
謝金	0	1,140,000	1,057,269	
賞金	0	200,000	200,000	
機器利用料	0	400,000	0	
業務委託費	0	1,500,000	901,265	留学経済支援応募の受付業務
通信費	0	980,000	1,343,512	シンポジウム中継用
物品費	0	500,000	123,699	1万円(認証状+パッチ)×最大50名
雑費	0	180,000	23,361	賞状、清掃費など
分野交流イベント費用	(2,640,000)	()	()	
旅費	500,000			講師・委員旅費
会場費	500,000			
謝金	740,000			講師・補助者謝礼
業務委託費	800,000			
雑費	100,000			オンライン費用、お弁当代、API利用費用等
若手向けイベント費用	(12,352,200)	(8,530,000)	(7,344,010)	
旅費	1,600,000	1,540,000	165,641	YANS委員旅費、チュートリアル講演者旅費、会場下見費用、招待講演者旅費
会場費	3,800,000	4,500,000	4,416,518	
支援金	350,000	350,000	339,333	学生旅費支援
謝金	240,000	240,000	592,016	招待講演、チュートリアル講演
賞金	300,000	200,000	459,279	奨励賞賞金、奨励賞賞状
機器利用料	100,000	0	0	ハッカソン計算機代
業務委託費	1,822,200	1,500,000	1,316,414	Confit利用費、GMO費用、秘書委託費用
通信費	1,350,000	0	0	会場のネットワーク費用
物品費	100,000	100,000	52,979	
懇親会費	2,400,000			公式懇親会費
雑費	290,000	100,000	1,830	雑費、茶菓子、景品
管理費	[7,342,220]	[6,037,549]	[4,988,713]	
代議員選挙費用	(200,000)	(0)	(0)	2年ごと(奇数年)、2025予算では計上
業務委託費	(3,819,620)	(4,303,735)	(3,328,006)	
学会事務委託費	3,000,000	2,814,735	2,814,790	中西印刷(株)委託費(偶数年未契約更新)
総務事務局費	389,620	960,000	0	
税理士報酬	412,500	412,500	412,500	
社労士報酬	16,500	16,500	16,500	2020年から税理士報酬より分離
司法書報酬	0	100,000	84,216	理事変更登記、約10万円、2年ごと(偶数年)
会費集金費	(779,901)	(659,533)	(813,276)	
通信運搬費	142,878	324,669	145,431	
租税公課	545,700	310,800	545,700	法人市民税・住民税・消費税
振込手数料	69,367	36,990	71,347	
HP関連経費	36,712	35,162	39,561	
HP改修費用	1,595,000	0	0	
理事会旅費	71,328	185,560	28,676	
雑費	82,716	181,100	16,716	総会資料作成費、会議室利用料、労働保険料ほか
経常費用計	85,526,316	81,396,016	80,382,873	
当期経常収支差額	1,882,096	-7,054,940	732,671	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外収支差額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	1,882,096	-7,054,940	732,671	
一般正味財産増減高	67,282,255	66,553,561	66,549,584	
一般正味財産期末残高	69,164,351	59,498,621	67,282,255	

2025年度代議員構成

2022－2025年度代議員		2024－2027年度代議員	
今村 賢治	情報通信研究機構	江里口 瑛子	Microsoft
内田 ゆず	北海学園大学	大関 洋平	東京大学
小木曾 智信	国立国語研究所	岡田 真	大阪公立大学
梶原 智之	愛媛大学	神崎 享子	追手門学院大学
窪田 悠介	国立国語研究所	高 鵬挙	東芝
阪本 浩太郎	BESNA研究所	佐々木 稔	茨城大学
笹野 遼平	名古屋大学	貞光 九月	VAIABLE
佐藤 敏紀	ソフトバンク	杉山 弘晃	NTT
鈴木 良弥	山梨大学	十河 泰弘	日立製作所
建石 由佳	科学技術振興機構	高橋 哲朗	富士通
谷口 友紀	旭化成	中嶋 秀治	NTT
平尾 努	NTT	西村 良太	徳島大学
松本 和幸	徳島大学	美野 秀弥	NHK
三輪 誠	豊田工業大学	横野 光	明星大学
計14名		計14名	